目的の評価

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
学内行事委員会

本資料は、学園祭実行計画書運営要領「Ⅰ.概要 B.目的」において定めた目的をもとに、第49 回筑波大学学園祭の総合的な評価を行う。アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照とする。

1　第 49 回筑波大学学園祭「雙峰祭」目的

学園祭を、開学 50 周年を迎えた本学の多様な価値観を共有する場にするとともに、伝統を引き継ぎつつ時代に適するものとした。
この目的を、学園祭運営要領「I.概要 B.目的」において定めた方法にて評価し、最後に第 49 回筑波大学学園祭の総合的な評価を行う。 ※アンケート集計結果等については「目的の評価補足資料」を参照

2　項目ごとの評価

2.1　「学園祭を開学 50 周年を迎えた本学の多様な価値観を共有する場にする」

今年度は感染症の制限も緩和され昨年度までの雙峰祭よりも規模が拡大され、参加した企画数も増加した。コロナ禍以前の雙峰祭では参加していなかった企画団体も新たに参加し、飲食企画以外にも芸術に関する企画や特定の地域の文化を紹介する企画も参加した。趣向を凝らした企画筑波大学内の多様な学生の活動を示すことができた。筑波大学の学生だけでなく学外の人との交流を行い、学外に対しても学生の多様な価値観を共有する場となった。したがって学園祭を開学 50 周年を迎えた本学の多様な価値観を共有する場にするという目的は達成されたと考えられる。

2.2　「学園祭を伝統を引き継ぎつつ時代に適するものとする」

今年度の委員会企画においては「筑波イチ受けたい授業」「つくば研究紹介」「実験教室」が復活し、コロナ禍以前の学園祭の伝統を引き継ぐことができた。参加者アンケートにおいても各企画に関しておおむね 160 人～190 人の人からポジティブな回答を得られている。学園祭の企画において 2.1 で述べたように様々な企画が参加し、多様な価値観を共有できたことにより時代にあった内容への変貌へのきっかけを作ることができたと考えられる。改善点としては多くの意見が寄せられた TSUKUBA　COLLECTION に関して、様々な意見をもとにミスコン・

ミスターコンのありかたを再検討をする必要がある。

3　まとめ

今回の学園祭においては新型コロナウィルス感染症に関する規制も緩和され、新たに学園祭に参加する人を獲得できた。全体としておおむね滞りなく運営が行われたと評価できる。改善点としては学園祭当日に至るまでの企画募集期間に対する意見や雙峰祭オンラインシステムに関する改善の要望が寄せられた。今年度の意見を参考に次年度以降の運営に反映していただきたい。